

# 学校法人 品川女子学院

## 平成28年度 事業報告書

平成28年4月 1日から

平成29年3月31日まで

### I. 法人の概要

#### 1. 設置する学校及び所在地

品川女子学院高等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

品川女子学院中等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

#### 2. 生徒数

(平成28年5月1日現在)

学校名	入学定員	収容定員	現員
品川女子学院高等部	225人	675人	666人
品川女子学院中等部	200人	600人	654人

(注1) 休学者を含む

(注2) 留学生を含む

#### 3. 役員等

(平成28年5月1日現在)

理事長	漆 邦臣
理事 (品川女子学院中等部・高等部校長)	漆 紫穂子
理事	塚田 成四郎
理事	高須 省三
理事	富本 道宣
理事	川村 文彦
理事	牛尾 奈緒子
監事	古谷 久恵
監事	戸川 五郎

理事定数 7人 現員 7人

監事定数 2人 現員 2人

評議員定数 15人 現員 15人

#### 4. 教職員数

(平成28年5月1日現在)

教員数 103人

(内訳)

専任教員 70人

講師 33人

職員数 17人

(内訳)

専任職員 12人

契約職員 5人

## II. 事業の概要

### 1. 教育目標 (ミッション)

私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます。

### 2. 教育活動

#### (1) 28プロジェクト

生徒が28歳の自分を思い描き、それを実現するためには何が必要か、どう行動すべきかを模索し、理想とする未来に向かっていくプロジェクトです。

中等部では、「他者」との関わりを通して自分を知るための総合学習を行い、自然な形で視野を広げていきます。また、企業コラボレーションや起業体験プログラムを実施して仕事への理解を深め、能動的に人生を設計できるようにさまざまな取り組みを実践しました。

#### (2) 総合学習等

中等部では、学年ごとにテーマ（1年「地域を知る」2年「日本を知る」3年「世界を知る」）を決め、そのテーマに基づいて年間の総合学習等の行事を構成しています。学習を展開するに当たっては、地域との連携、卒業生や保護者、外部の専門家の方の協力を得て行いました。

#### (3) SGHの取り組み

平成26年度に文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されました。SGHとは将来のグローバル・リーダーの育成をめざす事業で、各校が研究テーマを持ち、実践しています。品川女子学院のテーマは「学校と社会が連携し、起業マインド

を持つ女性リーダーを育成する研究」です。

#### (4) 特別講座

大学、企業等の専門家に協力していただき、情報、科学、経済など様々なテーマで特別講座を31講座行いました。

#### (5) 国際交流

中学3年は、ニュージーランド修学旅行を全員参加で実施しました。8日間コースと3週間コースがあり、約9割の生徒が3週間コースを選択しました。ホームステイをしながら現地校に通い、こころと体いっぱい「世界」を堪能して、世界の中の日本・自分を再認識してきました。

修学旅行以外にも留学プログラムを12校31種類(1年10種類、3ヶ月21種類)用意しました。

海外からの留学生も受け入れています。平成28年度は6人の留学生を迎え、在校生と親しく交流しました。

### 3. 生徒支援

#### (1) 奨学金制度

入学後の家計急変のため学業の継続が経済的に困難になった生徒対し、授業料等を免除する「授業料等特別免除」と、奨学金を贈与する「白ばら奨学金」の2つの制度があります。平成28年度は1人の生徒が制度を利用しました。

#### (2) 留学奨励金制度

平成26年度より、本校の留学プログラムに参加する生徒の内条件を満たした生徒に留学奨励金を支給する制度を創設しました。平成28年度は6人の生徒が制度を利用しました。

#### (3) 留学生支援

海外からの留学生に対し、学費免除等の経済的支援を行っています。

※上記の支援制度は全額、奨学基金(3号基本金)の運用収入および後援会からの寄付で賄っています。

### 4. 施設・設備整備

- ・カフェテリアの空調機を更新しました。
- ・授業用の液晶プロジェクターを買い増しました。

- ・電話交換機を更新しました。
- ・教員貸与パソコンを更新しました。

### Ⅲ. 財務の概要

平成28年度の教育活動収支は当初予算を上回りました。

これは、寄付金、補助金が増加し、教育研究経費、管理経費が減少したことによるものです。教育活動収支差額は、予算を約4千600万円上回りました。

一方、教育活動外収支は受取利息・配当金が減少したため、予算を約3千300万円下回りました。

以上により、経常収支差額は予算を約1千400万円上回りました。

特別収支は、資産処分差額が約600万円発生しました。

施設関係支出等を主な内容とする基本金組入額は予算を約500万円上回りました。

これらの結果、当年度収支差額は予算段階での約1億3千500万円のマイナスから約1億2千200万円のマイナスへと改善することになりました。